

最優秀賞

北広島町 『広報きたひろしま』（令和3年1月号）



- 発行部数(年間発行回数): 8,100部(12回)
- 担当課: 総務課情報電算係
- 連絡先: 050-5812-1850

【担当者より(主な記事の掲載意図)】

コロナ禍で大きな影響を受けた医療や経済。その陰に隠れて、各地の伝統文化・芸能もまた大きな影響を受けています。北広島町では、地域で愛される神楽が中止され、練習すらできない状況が続いていました。本来は人と人の距離を近づけるための「祭り」も、コロナ禍のなかでは「ソーシャルディスタンス」。矛盾のなかで葛藤する神楽団・地域のみなさんの姿がありました。

神楽を受け継ぐことは、容易なことではありません。お金や人の問題はもちろんあります。しかし受け継いでいくための最も大きな力は、結局のところ「神楽が好き」ということだと思います。高校生や神楽を大切に思う人たちの姿を通じて、改めてその気持ちを確認してほしいと考えました。

「大切な伝統文化・芸能を継承しましょう」という投げかけは、反論すべき余地もない正しい言葉ではありますが、ごく当たり前の誰にでも言えるメッセージです。伝統芸能が根付いたまちの暮らしているのだから、私たちには、「伝統をつなぐ意味」や「神楽の価値」を一人ひとりが考え、それぞれの思いを話し合うことができます。そのきっかけとなるよう「自ら考える余白」を残すことを意識して制作しました。神楽に関しては一言ある人が多いなかで、バランス感覚が求められた記事制作となりました。

＝講評＝

- 神楽のある地域とコロナというテーマをしっかりと特集にしているため見応えがあった。製作意図通りの良い企画だと思う。
- 神楽について、丁寧に取材し、まとめている。この地域にとって神楽が特別なものであること、若い人への継承が、誇りにつながり、地域の独自性にもなっている。
- ライターさんがきちんと自分事として、しっかりした目線と愛をもって書いているので、読み進めやすい。
- イラストや写真なども効果的に使われ、ゆったり読みやすいようにデザインされていた。

優秀賞

海田町 『広報かいた』 (令和3年8月号)



- 発行部数(年間発行回数): 14,000部(12回)
- 担当課: 企画部企画課
- 連絡先: 082-823-9212

【担当者より(主な記事の掲載意図)】

巻頭企画の「今をときめくまちのあの人に会いに行く」は本町にゆかりのある人を毎月紹介する企画である。現在の活動やこれまでのエピソードを交えて、自身の目線から見たまちの魅力や今後の目標などについて語ってもらい、読者である町民にまちの新たな魅力を発見してもらいたい。

また、本町では広報紙を全戸配布しており、情報発信ツールとして最も重要な手段であることから、できるだけ多くの町民に読んでもらえるように毎月読みたくなる企画を巻頭に設置する。

＝講評＝

- 巻頭企画、今をときめくまちの人に会いに行く～という特集が、とても丁寧に制作されていて、マチの人をたいせつに扱う姿勢が感じられる。人物のインタビュー写真がとてもいい。
- 町内で頑張る人を丁寧に紹介している。若さ、明るさが伝わる写真も良い。どんな人が街にいるのか、というのはその街らしさでもあり、新たなつながり作りにもなりそう。
- 分かりやすい表現や見出しが心掛けられていると感じられる。
- 「海田のお気に入り」なども街らしさが伝わって良い。
- 情報量の割に見やすくレイアウトされて、写真やイラストの使い方も良いと思う。